

KYOTO Next Award 2025

受賞者のご紹介

京都ブランド推進連絡協議会



株式会社ローカルフラッグ

代表取締役 濱田 祐太 氏

KYOTO
Next Award
2025

すべての人へ、あそびを。ー挑戦と共創があふれるまち、与謝野ー

【事業概要】

若者の転出による人口減少が深刻な与謝野町発のローカルベンチャーとして、地域資源であるホップを自社栽培し、それを活用したクラフトビールの製造・販売を主軸に、地域活性化と持続可能なまちづくりに取り組んでいる。与謝野駅前に設立した醸造所・飲食店の運営に加え、地域を巻き込んだイベント企画や観光資源の開発にも注力し、地域の魅力を広く発信。得られた利益は地域に再投資し、行政に依存せず民間主導でまちの未来を築く仕組みの構築を目指している。

地元住民、移住者、観光客など多様な人々を巻き込みながら、与謝野町を「遊び心あふれるまち」へと進化させている。

【選定理由】

生まれ育った与謝野町への深い愛着を原点に、地域資源として開発途上だったホップに着目してクラフトビール事業を開始し、民間主導による持続可能な地域活性化に取り組んでいる点は、賞の趣旨に最も合致する。醸造所や飲食店等の運営を通じて地域に賑わいを生み出し、既に数名の雇用を創出するなど、地域経済への具体的な貢献も高く評価できる。

【所在地】京都府与謝郡与謝野町下山田1342-1

【連絡先】<https://local-flag.co.jp/>





Riku Matsuzaki

代表 松崎 陸 氏

KYOTO
Next Award
2025

京藍再興一命の色で命をつつむ、土へ還る京藍染

【事業概要】

100年前に途絶えた京都原種の藍「京藍」を復活させ、自家栽培と独自の発酵技術を用いた持続可能な染色「京藍染め」の商品・アート作品を制作している。化学薬品や合成繊維を一切使用せず、染色後の廃液も土に還元するなど、自然循環に寄り添ったものづくりを実践している。

また、海外アートフェアへの出展やハイブランドとのコラボレーション、妙心寺への作品奉納など、藍染の新たな価値創造と藍染文化の発信も積極的に行っている。

地域農業と連携して京藍栽培に取り組むとともに、教育機関と藍染体験を協働実施するなど多様な主体を巻き込み、京藍を軸にした文化・産業の再生に取り組んでいる。

【選定理由】

100年前に滅んだ京藍の復活という歴史的意義に加え、研究・栽培から染色、製品化までを一人で担う姿勢は、並外れた行動力と使命感の現れである。自然との共生を重視した製法は、環境負荷の低減にも寄与しており、伝統と革新を融合させた新たな京藍染文化の創造に大きな期待が寄せられる。

【所在地】京都市西京区大原野南春日町544-26

【U R L】<https://matsuzakiriku.com/>





株式会社虫秘茶

代表取締役 丸岡 毅 氏

KYOTO
Next Award
2025

蛾の幼虫のフンのお茶「虫秘茶」で、生態系の価値を引き出す

【事業概要】

京都大学発のスタートアップ企業である同社は、蛾の幼虫が植物の葉を食べた後に排出する糞を原料とした、世界でも類を見ない発酵茶の研究・製造・販売に取り組んでいる。虫と植物の自然な営みから生まれる独自の香りと味わいは、ミシュラン星付きレストランでも採用されるなど高い評価を得ており、「大学のまち京都」の学術的土壌と感性を背景に、新たな食文化を提案している。

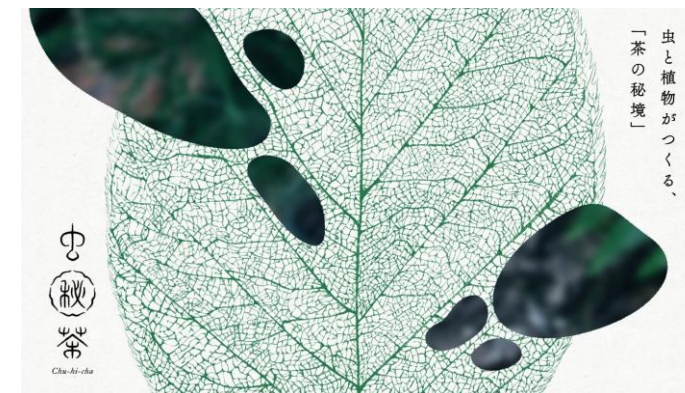
さらに、中山間地域の農家に幼虫の育成と糞の回収を提案することで、耕作放棄地の解消と適切な農地管理、新たな収益源の確保による地域活性化にも取り組んでいる。

【選定理由】

蛾の幼虫の糞を原料としたお茶という他に類を見ないコンセプトは、豊かな食文化が息づく京都において、全く新しい食のブランドを生み出す可能性を秘めている。「大学のまち京都」「京の食文化」を代表するようなユニークな食品として、京都から世界へ、さらなる飛躍を期待したい。

【所在地】京都市伏見区深草車阪町6-17

【URL】<https://chuhicha.com/>





株式会社斗々屋

代表取締役社長 梅田 温子 氏

ゼロウェイスト スーパーマーケット 斗々屋

【事業概要】

京都が育んできた自然と共生する丁寧な暮らしの文化を背景に、日本初のゼロウェイスト（ごみを出さない）・スーパーマーケットを運営し、個包装を排した「量り売り」やリターナブル容器の導入、食品ロスを抑えるキッチン運営など、徹底した循環型の仕組みを構築・実践している。

オーガニックやフェアトレード商品を中心に、必要な分だけ購入できる柔軟な販売スタイルを採用し、地域の小規模農家との連携による地産地消も推進。さらに、消費者の環境意識を高めるワークショップやゼロウェイスト・スーパーの開店支援、更なる資源循環に向けた実証実験なども展開しており、持続可能な社会の先行事例として注目を集めている。

【選定理由】

「量り売り」は、地域小売店（スーパーマーケット）の新たな形として、地産地消を進め、消費行動の選択肢を広げる点で社会的意義が大きい。同社の取り組みに共感する支援者や消費者は全国に数多く、新たな生活文化と循環型経済の先駆的モデルとして、京都から全国・世界に向けて発信してもらいたい。

【所在地】京都市上京区出水町252 大澤事務所ビル1階

【URL】<https://totoya-zerowaste.com/>



KYOTO Next Award 2025 概要

- 応募対象 法人、団体、個人及びその商品や技術、サービスなどで、以下の各項目に該当するもの。
 - ①京都の新たなブランド構築や課題解決のための取り組みを行っていること。
 - ②活動拠点が京都府内にあり、今後も府内での活動を想定していること。
- 募集期間 2025年1月21日(火)～4月11日(金)
- 応募件数 99件
- 表彰基準
 - [未 来] 未来の京都を創る、もしくは未来の京都ブランドとなる可能性を有する取り組みであるか
 - [課題解決] 社会や業界の課題、身近な不便・不具合を解消・解決する遂行力があるか
 - [京 都] 京都(地域)に対する想い、または文化や歴史に対する理解や潜在的な可能性を有しているか
- 受賞特典
 - ・ブランド化サポート資金 総額400万円
 - ①奨励金 総額200万円・・・人件費や賃料、一般広報など、通常の事業活動に係る費用をサポートします。
 - ②支援金 総額200万円・・・設備投資や広告宣伝、コンサルティングなど、未来のブランド化を見据えた活動に係る費用をサポートします。
 - ・マッチング支援
京都府・京都市・京都商工会議所のネットワークを活用し、受賞者の京都ブランド化を支えるビジネスマッチングを推進します。
 - ・広報支援
京都府・京都市・京都商工会議所の広報誌やホームページ、SNS等での発信と、メディアを活用した戦略的な情報発信を支援します。
- 主 催 京都ブランド推進連絡協議会 表彰委員会
 - 委員長 堀場 厚(京都商工会議所 会頭)
 - 委 員 西脇隆俊(京都府 知事)
 - 委 員 松井孝治(京都市長)
- 選考委員
 - 【委員長】 内田 隆 京都青果合同株式会社 代表取締役社長兼グループCEO
京都ブランド推進連絡協議会 会長
 - 【委 員】 秋元 祥治 株式会社やろまい 代表取締役/武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部 教授
 - 門脇あつ子 大阪ガス株式会社京都地区 執行役員 京都地区統括支配人
 - 矢島 里佳 株式会社和える 代表取締役
 - 山崎 大祐 株式会社マザーハウス 代表取締役副社長